

## ま え が き

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に実施している調査です。

我が国における農林業に関する全数調査としては、国際連合食糧農業機関（F A O）の前身である万国農事協会が提唱する「１９３０年世界農業センサス」の実施に沿って行われた「昭和４年農業調査」が始まりとされています。

戦後、我が国はF A Oが世界的規模で提唱した「１９５０年世界農業センサス」に参加し、農業センサスの基礎が固まりました。１９６０年からは林業センサスも同時に実施され、「１９６０年世界農林業センサス」として調査が行われました。これ以降１０年ごとに「世界農林業センサス」が、その中間年には我が国独自の「農業センサス」（２００５年からは「農林業センサス」）が実施されてきました。

今回の２０１５年農林業センサスは戦後１４回目の農業センサス、８回目の林業センサスにあたりますが、我が国の農林業を取り巻く情勢の変化や農林業施策の動向に対応するため、６つの調査項目が新設・拡充されるなどの見直しが行われました。

この報告書は、平成２７年２月１日現在で実施した「２０１５年農林業センサス」の調査結果のうち、山口県内の農林業経営体調査の結果をとりまとめたものです。

本書が農林業の現状把握に資するものとして、また、農林業諸施策をはじめ地域振興に係る基礎資料として広く皆様にご活用いただきますことを期待しています。

終わりに、この調査の実施にあたり、格別の御理解と御協力をいただきました関係各位に対し、厚くお礼を申し上げます。

平成２９年３月

山口県総合企画部長      大谷 恒雄